

# みほとけ

〒339-0008 さいたま市岩槻区表慈恩寺990

T E L 048 - 794 - 1759

F A X 048 - 794 - 3388

E-mail jyougenji@hotmail.com



## 常源寺と檀信徒をつなぐ

### 「いただきます」の心

秋も深まり、さまざまな食材が旬を迎え、食卓には色鮮やかな食事が並ぶ季節となりました。

曹洞宗を開かれた道元禅師は、食事をいただく心構えや作法を『赴粥飯法』という書物にまとめ、「食べることも日々の重要な修行であると説いています。『赴粥飯法』の中にある「五観の偈」は僧侶が食事の前に唱えるものですが、私たちの生活にも通じるものがあります。

「一つには功の多少を計り彼の来処を量る」

この食事が、どれだけ多くの人の手間に支えられ、どのような場所からここに届けられたのかをよく考え、感謝していただきます。

「二つには己が徳行の全欠と付って供に応ず」

この食事をいただくのに、自分の行いを省みて、ふさわしい生き方をしているか、仏の教えにかなった生き方をしているか省みながらいただきます。

「三つには心を防ぎ過を離るることは貪等を宗とす」

この食事に対して好き嫌いや不平不満、食りの心を起こさずに、慎んでいただきます。

「四つには正に良薬を事とするは形枯を療ぜんがためなり」

この食事は自分の生命を支えるための良薬と心得ていただきます。

「五つには成道の為の故に今この食を受く」

この食事は自分の成仏得道を完成するための糧と思っていただきます。

食事は食欲にまかせて食べることはありません。食欲の秋。食事をいただける有り難さを感じ、手を合わせて一つひとつの命に感謝の気持ちを表して「いただきます」と言いたいものです。



#### ■ 暮らしの中の仏教用語

##### 道場（どうじょう）

道場というと武芸の練習場を思い浮かべますが、本来はお釈迦様が悟りを開いた場所とされているインド北部にある菩提樹の下を指す言葉でした。

それがやがて、菩提樹の下に限らず「悟りを開く場所」を意味するようになり、さらに「修行をする場所」を指すようになりました。

この仏教語が、やがて武芸を練習する場所を意味するようになったと言われています。「道場」とは、身体を鍛錬するだけでなく、精神を修養する場所でもあるのです。

#### ◇ 仏教なんでもQ & A ◇

Q お塔婆はいつまで建てておけばよいですか？

A ご法事の際にはお塔婆をお建てしていますが、お塔婆を建てる期間に明確なルールはありません。一般的には次の法要まで建てておき、古くなったお塔婆は新しいお塔婆を建てるタイミングで差し替えることが多いです。ただし、お塔婆に使われている木材は特別な防腐加工をしていないので朽ちるのが早いので、文字が読めなくなったり、根本が腐ったりしてしまったら差し替えるのが良いでしょう。お墓参りの際には、お塔婆の状態も気にかけてみてください。古くなったお塔婆は本堂裏の古塔婆入れに納めていただければお寺で御供養した後、無料でお焚き上げをしております。

# 新春祈禱法要 修正会

まもなく新年を迎えます。皆様は新年を迎えられると様々な神社や仏閣に初詣をされることと思いますが、菩提寺のある方は、新年を迎えられたら、まず御自宅の御仏壇にお参りをし、菩提寺へ出かけ、御本尊様にお参りをした後、お墓参りをして新年の御挨拶をいたしましょう。

当山では、檀信徒の皆様の幸せ、国家の繁栄、人類の平穏、諸縁吉祥等を願って、毎年恒例の新年最初の法要である修正会を下記のとおり厳修いたします。家内安全、除災招福、学業成就、病氣平癒等、お一人お一人の祈りを込め、心新たに新年を迎えましょう。どうぞ、御家族そろってお参りください。

**日時** 令和8年1月2日（金） 午前10時より  
**場所** 常源寺 本堂

- ◎事前のお申込みや御予約は必要ありません。
- ◎御布施や御志等は不要です。また、平服でお越しください。
- ◎寒さが予想されますので、防寒対策をしっかりとってお参りください。
- ◎当日お参りいただいた方には、令和8年のカレンダーと祈禱札をお渡しいたします。

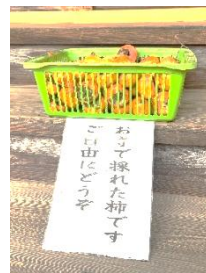
## 秋彼岸法要を厳修しました

9月21日（日）、秋季彼岸法要を厳修いたしました。時折、境内の木々からセミの鳴き声が聞こえる残暑の中、多くの方に御参列をいただきました。常源寺檀信徒の皆様の家門繁栄、諸縁吉祥を御祈願した後、皆様の大切な御先祖様並びに今年5月に開園した自然葬永代供養墓苑「清蓮の苑」に合祀されている方々の御供養を行いました。

## お寺で収穫した柿とぎんなんを差し上げます

今年の夏の記録的な暑さの影響なのか、本堂脇にある柿と銀杏の木には、例年になく多くの実がなっています。「柿が赤くなると医者が青くなる」ということわざがあるほどで、柿は、肌の健康維持や生活習慣病予防など、さまざまなメリットが期待される健康食品として知られています。また、ぎんなんは、肺の働きを助けるため、咳止めとしての効果があるそうです。お寺で収穫した柿とぎんなんを本堂正面の階段に置きましたので、お墓参り等でお越しの際はぜひ御自由にお持ち帰りください。

（日によって収穫量に差があるため、お越しいただいてもお持ち帰りいただけない場合もございます。予め御了承ください。）



## □■□ 古くなった御位牌や御仏壇の処分をお考えの方へ □■□

古くなった御位牌や御仏壇を処分する際は、閉眼供養を執り行いましょう。閉眼供養とは、御位牌や御仏壇に宿る故人様の魂を抜き、仏様の世界へ送り出すための仏教儀式です。

御位牌の場合は、お寺にお持ちいただければ、閉眼供養の後、お焚き上げをいたします。御仏壇の場合は、御自宅へお伺いいたしますので御気軽に御相談ください。御仏壇のお焚き上げは、閉眼供養の後、専門の業者等に御依頼していただくのがよろしいでしょう。